洗濯作業行動・空間の実態と問題点

―― 2000年と2008年の調査から ――

The Actual Conditions of Washing Work/Working Space and Problems to Be Solved
—From an Investigation Carried Out in 2000 and in 2008—

住居学科　小板橋恵美子　沖田富美子
Dept. of Housing and Architecture　Emiko Koitabashi　Fumiko Okita

抄　録　現在，わが国では洗濯作業は「洗面・脱衣室」の一部での実施が一般的である。特に洗濯作業は，洗濯機の機能向上により，かなり楽な家事作業と捉えられている。そのような状況の中で，本研究は2000年と2008年に実施した２つの調査から，洗濯作業及び洗濯空間の実態とそこに生じている問題を時系列的にとらえることを試みた。その結果，1．洗濯機の機能向上及び社会状況，時代の変化にもかかわらず，洗濯作業の実態，そこに生じている問題には変化がないこと，2．水を使う作業よりもその後の乾いたものにかかわる作業に，またそれら作業を行なう場の位置づけに問題があることを明らかにした。
キーワード：洗濯作業，洗濯空間，家事労働，戸建て住宅居住者，意識

Abstract　At present in Japan, clothes are generally washed in part of the "washing/undressing room". Washing itself is regarded as relatively easy housework thanks to functional improvements in washing machines. Under these circumstances, this study was carried out in a time-series manner in order to grasp the actual conditions of washing clothes and the washing space, utilizing an investigation carried out in 2000 and in 2008. It was found that despite the functional improvements in washing machines, social circumstances, and the change in time, it became clear that: 1. There has not been much change in the actual conditions of washing clothes and the accompanying work, and 2. There are many more problems to be solved regarding washing and drying clothes, as well as the actual washing using water and the arrangement for washing and its accompanying work.
Keywords : washing, washing space, housework, residents at detached house, attitude

1．本研究の目的

1999年からの雇用機会均等法の施行や女性の高学歴化を背景に，女性の社会進出は当然のこととなり，妻の就労率も増加している。今日，家事作業は家族の協力が必要であることが提言されているが，夫の家事参加，子供の家事手伝いはいまだあまり行なわれていないのが実情である。したがって家事作業の負担をできるだけ少なくするための住まいのあり方について，検討することが必要である。

これまでも家事作業空間のあり方については種々の研究がなされ，提案されてきた。その多くは家庭の主婦が行なうことを前提に計画されたものが多い。しかし日中の家族不在，家事に携われる時間の減少，家族の形態および生活様式の変化など現在の生活は大きく変容している。

そのような中で，台所については様々な角度から研究がなされ，機能性，利便性，家事動線の短縮化，家族とのコミュニケーションの確保などから，重要な一住空間として提案され，計画されてきている。しかし家事作業の一つである洗濯作業は，洗濯機の自動化・大型化などにより作業にかかる時間や労力

が軽減されていることから，その計画にあたってはあまり問題とはされてきていない。また洗濯作業の全行程が省力化されたわけではない。洗濯作業は，洗濯物の仕分けから，洗う・干す・取り込む・たたむ・アイロンかけ・収納と言う一連の行為から成り立っている。

そこで本研究は，これら一連の行為が，実際にどのように行なわれているかその作業の実態から，洗濯作業空間の実情と問題点を明らかにし，効率的に作業のできる住空間計画を提案するための基礎資料を得ることを目的に実施した2つの研究をもとに，時系列による変容を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

2008年に実施した「居住空間と洗濯動線の関係性に関する研究」*1，2000年に実施した「家事作業空間について―洗濯作業を中心に―」*2の2つの研究の結果から検討することを試みた。

まず前記の研究は，洗濯動線から一般住宅の洗濯空間計画の一指針を得るために，大学生の家族を対象に調査を実施しており，調査対象者の住宅形式は戸建住宅，集合住宅など様々である。一方，後記の研究は，まず家事作業全般の分担状況，作業時間，考え方などをとらえ，そのうえで洗濯作業の実態を，戸建住宅居住者の主婦を対象に調査したものである。

この2つの調査の最終目的及び調査方法，調査内容は若干異なるが，洗濯作業の実情と問題点を明らかにしようとした点は同じであることから，比較の対象とすることは可能ととらえた。なお対象者を統一するため，前研究の調査については，戸建住宅居住者にしぼり分析し，現時点と2000年（約8年前）との変容をとらえることを試みた。その結果を報告する。

3. 調査の結果

(1)「洗濯行動と洗濯空間に関する実態調査」

女子大学生の家庭を対象に，住宅の状況，洗濯担当者，洗濯機の種類，洗濯行為の場所などについて，アンケート調査（主として洗濯担当者に学生がヒアリングする方法を採用）を，2008年7月に実施。調査配布数102件，回収数99件である。そのうち戸建住宅居住者は51件である。

1）調査対象の概要

調査対象者及び住宅の概要を表1-1に示す。

表より家族人数は4人が一番多く，次いで多いのは5人で，平均家族人数は4.3人である。家族構成はいわゆる核家族が7割弱を占めるが，3世代家族も2割ある。父親は会社員・公務員が多く（76.5％），一方母親は専業主婦が28人（54.9％）と約半数を占め，1割がパートをしている。有職主婦は27.5％である。父親の年齢は51歳以上60歳以下が一番多く，母親の年齢は41歳以上50歳以下が一番多い。平均年齢は父親50.2歳，母親は47.4歳である。調査対象者の居住地は東京都居住者が半数，次いで神

表1-1　調査対象者・住宅の概要（n＝51）

		件	%
家族人数	2人	0	0
	3	7	13.7
	4	24	47.1
	5	14	27.5
	6	4	7.8
	7	2	3.9
所在地	東京	21	41.2
	神奈川	17	33.3
	埼玉県	8	15.7
	千葉	3	5.9
	その他	2	3.9

		件	%
家族構成	夫婦＋子供	34	66.7
	夫婦＋子供＋祖父・母	11	21.6
	その他	6	11.7
父親（世帯主）年齢	40歳以下	0	0
	41～50歳	23	45.1
	51～60歳	24	47.1
	61歳以上	1	1.9
	無回答	3	5.9
	平均年齢	50.2歳	
母親年齢	40歳以下	0	0
	41～50歳	33	64.7
	51～60歳	15	47.1
	61歳以上	1	1.9
	無回答	2	4.2
	平均年齢	47.4歳	

		件	%
所有	持ち家	50	58.1
	借家	1	1.9
建築年数*	5年未満	4	8.2
	5年以上10年未満	7	14.3
	10年以上20年未満	26	53.1
	20年以上30年未満	7	14.3
	30年以上	5	10.2
	平均建築年数	19.3年	
住宅規模**	100 m^2 未満	7	21.2
	100 m^2 以上150 m^2 未満	16	48.5
	150 m^2 以上200 m^2 未満	6	18.2
	200 m^2 以上	4	12.1
	平均住宅規模	149.2 m^2	

*建築年数　49件のみ
**住宅規模　33件のみ

奈川県である。住宅規模は100 m^2 以上150 m^2 未満が最も多く，100 m^2 以上の住宅居住者が8割以上を占める。平均住宅規模は149.2 m^2 である。建築年数は10年以上20年未満が半数強を占めるが，5年以上10年未満，20年以上30年未満も多く，10年以上20年未満を中心に，長期と短期にほぼ2分される。

2）洗濯設備機器の種類と設置場所

洗濯機の種類としては，従来の二層式洗濯機と今日主流を占める縦型洗濯機およびドラム式洗濯機を取りあげた結果，縦型洗濯機の所有が一番多く51件中42件（82.4％）を占める。かつて主流であった二層式洗濯機所有者は2件にすぎない。ドラム式洗濯機の所有者は7件（13.7％）である（表1-2-1参照）。なお縦型洗濯機，ドラム式洗濯機には乾燥機能のある機種と乾燥機能のない機種とがある。乾燥機能のある縦型洗濯機を所有している家庭は42件中15件（37.2％）である。

一方乾燥機は，37件（72.5％）が4種類の乾燥機（縦型洗濯乾燥機，ドラム式乾燥機，衣類乾燥機，浴室暖房乾燥機）のいずれかを所有している。中でも一番多いのが縦型洗濯乾燥機（19件37.3％）で，次に多いのが衣類乾燥機（13件25.5％），ドラム式乾燥機は7件（13.7％）である。浴室暖房乾燥機は11件（21.6％）の家庭が所有している。なお「縦型洗濯乾燥機」+「衣類乾燥機」（4件）や「ドラム式乾燥機」+「衣類乾燥機」（1件）と乾燥機能つき洗濯機のほかに単体の衣類乾燥機を所有している家庭もある。いずれの乾燥機（浴室乾燥機は除く）も所有していない家庭は16件（31.4％）ある。この乾燥機を洗濯機のタイプとの関係からとらえたのが表1-2-2である。表より縦型洗濯機使用の場合，乾燥機所有は26件であるが，そのうち乾燥機能付き洗濯機の所有が15件で，11件は衣類乾燥機を所有している。ドラム式洗濯機の場合，衣類乾燥機も所有している家庭が1件ある。

それら洗濯機の設置場所は表1-3に示すように，洗面・脱衣室が圧倒的に多く40件（78.4％）を占める。しかし独立した家事室・洗濯室に設置しているケースも6件（11.6％）ある。なお洗面・脱衣室に洗濯機を設置している場合，その場所で実施している行為から，洗面・脱衣室がどのような空間としてとらえると，「洗濯」（49件96.0％），「化粧，洗面」（36件70.5％）の空間であることは当然であるが，「これから洗う洗濯物の保管」（44件86.3％），「リネン類の収納」（34件66.7％）の場所となっている住宅が多い。その他

表1-2-1　洗濯機・乾燥機所有の有無（n＝51）

			件数	%
洗濯機の所有			51	100.0
	二層式洗濯機		2	3.9
	縦型洗濯機		42	82.4
	ドラム式洗濯機		7	13.7
乾燥機（4種類）の所有			51	100.0
	どれも所有していない		14	27.5
	いずれか所有		37	72.5
乾燥機器（浴室乾燥機除く）の所有			51	100.0
	いずれか所有		34	66.7
		縦型洗濯乾燥機のみ	15	29.4
		衣類乾燥機のみ	8	15.7
		ドラム式乾燥機のみ	6	11.8
		縦型＋衣類乾燥機	4	7.8
		ドラム式＋衣類乾燥機	1	1.9
	いずれも無し		16	31.4
	無記入		1	1.9

表1-2-2　洗濯機タイプと乾燥機の関係

			件数	%
二層式洗濯機			2	100.0
	乾燥機所有なし		1	50.0
	衣類乾燥機所有		1	50.0
ドラム式洗濯機			7	100.0
	乾燥機能付き		7	100.0
		衣類乾燥機も所有	1	14.3
縦型洗濯機			42	
	乾燥機所有		26	61.9
		洗濯機（乾燥機能つき）	15	57.7
		衣類乾燥機所有	11	42.3
	乾燥機なし		15	35.7
	無記入		1	2.4

表1-3　洗濯機の設置場所（n＝51）

	件数	%
洗面・脱衣室	40	78.4
家事室	4	7.8
バルコニー	1	1.9
玄関脇	0	0
台所	1	1.9
洗濯室	2	3.8
その他	2	3.8
無記入	1	1.9

「下着，衣類の収納」(17件33.3％)，「衣服を干す」(14件27.5％)，「アイロンがけ」(6件11.8％) など，洗濯作業にかかわる一連の作業をおこなっている家庭もある。ちなみに洗面・脱衣室で行ないたい行為としては「衣服を干す」(20件39.2％)，「下着，衣類の収納」(15件29.4％)，「アイロンがけ」(12件23.5％) が多い。

なおドラム式洗濯乾燥機，縦型洗濯乾燥機，衣類乾燥機の使用頻度をトータル的にとらえると，表1-4に示すように，「いつも・普段から良く使用」(51.2％) がやや多いが，「1年をとおしてたまに使用／特定の時期に良く使用し普段はたまに使用」(41.0％) も多く，ほぼ2分される。なお乾燥機を所有しているにもかかわらず「全く使っていない」ケースもある。浴室暖房乾燥機は，前述の乾燥機類と異なり，一年をとおしてたまに，また特定の時期にしか使用されていないと言える (7件63.6％)。

3) 洗濯の方法

①洗濯物の種類別洗濯方法

まず自宅での洗濯は，どのぐらいの範囲まで実施されているかを，クリーニングの利用度合いからとらえると (表1-5)，14種類中ジャケット，ジャンパーは7～8割が外注であるのに対し，ワイシャツ，セーターは約半数，毛布，ワンピース，スカート，カーディガン類は約1/3が外注しているにすぎない。さらにシャツ，下着，シーツ，タオル，タオルケットなどはほとんど外注していない。したがって洗濯機での洗濯は，下着やリネン類が中心であると言える。

洗濯の頻度，回数，時間帯を表1-6に示す。表より洗濯の頻度は「ほぼ毎日」が圧倒的に多く，洗濯回数は「日によって一～二回」が半数強を占める。洗濯実施時間帯は，「朝 (7時から10時)」が一番多い。「早朝」「午前中」を合わせると洗濯はほとんどの家庭が，お昼までに実施していると言える。

②洗濯作業の流れ

まず，洗濯作業にかかるまでの洗濯物の保管は，「洗濯カゴなど専用の入れ物にためている」(32件62.7％) が一番多く，次いで「洗濯機の中に直接入れてためている」(10件19.6％)，「洗濯カゴと洗濯機の中と両方」(9件17.6％) である。なお前述したように洗濯機を設置した場所で行なっている行為として，「これから洗う洗濯物の保管」をあげるものが多かったことから，保管専用の洗濯カゴが，この場所に置かれていることが推察できる。

次の洗濯物の下洗いは，洗面・脱衣室で一番多く行なわれているが (28件54.9％)，浴室で下洗いする家庭も3割弱ある。

表1-4　乾燥機の使用状況

		件数	%
乾燥機（複数回答）の使用		39	100.0
	いつも・普段使用	19	51.2
	たまに使用	16	41.0
	あまり使用しない	1	2.6
	全く使っていない	2	5.1
浴室乾燥機の使用		11	100.0
	いつも・普段使用	1	9.2
	たまに使用	7	63.6
	あまり使わない	3	27.2

表1-5　洗濯物の洗濯方法（クリーニング利用度）(n＝51)

	件数	%
ワイシャツ	26	50.9
シャツ	1	1.9
セーター	23	45.1
ジャケット	41	80.4
ワンピース	14	27.5
毛布	16	31.4
シーツ	1	1.9
ジャンパー	37	72.5
タオル	0	0
タオルケット	0	0
カーディガン	14	27.5
下着	0	0
スカート	16	31.3
パンツ	6	11.8

表1-6　洗濯の頻度，回数，時間帯 (n＝51)

		件数	%
頻度	ほぼ毎日	48	94.1
	二日に一回	3	5.9
	三日～四日に一回	0	0
	週に一回	0	0
回数	ほぼ毎日一回	18	35.3
	日によって一～二回	28	54.9
	ほぼ二回以上	5	9.8
時間帯	早朝 (4～6時)	8	15.7
	朝 (7～10時)	32	62.7
	午前中 (10～12時)	8	15.7
	午後 (13～16時)	0	0
	夜 (17から22時)	2	3.9
	深夜	1	1.9

洗濯は家族のものをまとめて行なう家が圧倒的に多いが，洗濯機を使用する場合，1回あたりの洗濯量は，洗濯機の「洗濯容量の8～9割程度」が一番多く（20件39.2％），「洗濯容量の6～7割程度」が次に多い（15件29.4％）。家族人数との関係では，必ずしも家族人数が多くなるほど洗濯容量いっぱいに洗濯しているとは限らないと言える。なお，これら洗う作業（洗濯）は，洗濯機の設置場所である洗面・脱衣室で行われている（設置場所の回答と異なるケースも若干あるが）。

さらに洗濯→脱水したあとは，「脱水後すぐに干す（10分未満）」（31件60.7％）が最も多く，「30分～1時間以内」（19件37.3％）も多いことから，続けて干す作業を行なっていると言える。「3時間以上」が1件あるが，全体として洗濯機の中に洗濯物が長時間放置されたまま，という家はないようである。

洗濯されたものの乾燥方法としては，表1-7に示すように，「ほとんどいつも外に干している」が6割，「普段外に干し，時々室内に干している」が2割を占め，乾燥機を使用しての乾燥は1割弱と少ない。これらの結果から，乾燥機は洗濯物の乾燥方法としては必ずしも主流にはなっていないと言えるが，特定の時期に使用されていることは，前述の乾燥機の使用頻度で明らかである。その特定の時期と言うのは，「梅雨の時期」（17件45.9％），「天気の悪い時」（16件43.2％），「早く乾かしたい，急いでいる時」（14件37.8％）などで，「外干し」の補助的な乾燥方法として使用されていると言える。ちなみに「室内干し」は8割強（51件中44件）がしており，しかも「天気が悪い，不安定な時」（30件58.8％），「急な天気の変化に対応できない時」（19件37.2％）が多い。室内干しをする場所は，「リビング・居間」（19件37.2％）が一番多く，次に多いのが「寝室」（12件23.5％）である。表1-8に示すように，住宅内のあらゆる場所が洗濯物の干し場となっていることがうかがえる。なお室内干しについては，「見た目が良くない」「臭いが気になる」「ひっかかって邪魔」など不満とする意見もあげられている。

干して乾いた洗濯物を取り込む場所は，種々様々であるが，中でも「リビング・居間」（19件37.3％）が一番多い。その他「サンルーム・縁側」が2割弱，「寝室」が1割強ある。さらに取り込んだ洗濯物を

表1-7　乾燥方法

	件数	%
ほとんどいつも外に干す	31	60.7
普段外時々室内	11	21.7
普段外時々乾燥機	4	7.8
室内干し	3	5.8
乾燥機	1	2.0
その他	1	2.0

表1-8　室内干しの場（44件，n＝67箇所）

	件数	%
洗面脱衣室	5	7.5
リビング・居間	20	29.9
和室	5	7.5
浴室	8	11.9
寝室	11	16.4
子供室	5	7.5
サンルーム・縁側	5	7.5
家事室	4	6.0
その他	4	6.0

たたむ場所は，取り込んだ「リビング・居間」がやはり一番多い（32件62.7％）。しかもこの件数は取り込んだ場所の件数から増加している。また「サンルーム・縁側」での件数がないこと，「ベランダ・バルコニー」の件数が4件から1件に減少していることなどから，これらの場所に取り込まれた洗濯物はさらに「リビング・居間」へ運ばれて，たたまれていることが指摘できる。なおたたまれた洗濯物は，「すぐ収納」されるのではなく，「一時保管して，後で収納」するが7割弱を占め多い（35件68.6％）。その保管場所は「リビング・居間」（35件中15件42.9％），「寝室」（11件31.4％）に，ほぼ集中しているが，「和室」（7件20.0％）の家も比較的多い。すなわちたたんだ場所にそのまま一時的に置く家庭が多いと言える。

洗濯物を収納するにあたって，アイロンがけ作業も洗濯作業の一つの行程であるが，衣類の材料の進化により，アイロンがけ作業の必要なものはかなり少なくなってきている。しかし調査対象家庭の場合，その頻度は種々異なるが8割の家庭が「アイロンがけ」をしており，「アイロンがけはほとんどしない」とする家は2割にすぎない。しかもアイロンがけは「ある程度たまったらまとめてする」（41件80.4％）が一番多いが，「取り込んだらすぐにアイロンをかける」（7件13.7％）とする家も1割いる。そのア

イロンがけ作業は，「リビング・居間」（32件62.7％）でしている家庭が多い。その後アイロンがけをした洗濯物はすぐに収納せず，一時保管するものが約6割いる（32件62.7％）。その場所は，アイロンがけ作業と同じ「リビング・居間」（32件中17件53.1％）が多いが，「和室」（6件18.8％）に置く家もある。

その後，洗濯物は「各々の部屋」「寝室」「子供室」など各自の部屋にある収納スペースに収納されるのが一般的であるが（40件78.4％），「家事室」「洗濯室」「洗面・脱衣室」などの他に，「和室」「リビング・居間」などの共有スペースに収納する家も2割弱ある。

一連の洗濯作業とその作業がおこなわれる場所との関係をまとめたのが，表1-9である。

以上の結果，洗濯作業は住空間のあらゆる場所を使用して成り立っていると言える。特に下洗い，洗濯など水を使用する作業は「洗面・脱衣室」で，乾いた洗濯物を取り込んでたたむ（アイロンがけも含む）までは「リビング・居間」でおこなわれ，収納は「各々の部屋」で行なうのが一般的な作業の流れであると言える。なお洗濯物の乾燥は，外干しが一応原則であるが，室内干しもおこなわれている。この場合も「リビング・居間」が主な干し場所となっているが，住宅内のあらゆる空間が使用される傾向にある。

なお調査対象家庭においても，家事室や洗濯室など独立した洗濯作業空間を有する住宅は少なく，「洗面・脱衣室＝洗濯場所」と言う考え方が定着していると言えよう。

4）洗濯に関する意識及び問題点

洗濯作業に関するイメージ（意識）について示したのが図1-1である。

図より“洗濯は家事の中では好きな方だ”は「あてはまる」（47.1％）が一番多いが，「どちらかと言えばあてはまらない」も多い。しかし「あてはまる」と「どちらかと言うとあてはまる」を合わせると6割を占めることから，比較的好まれている家事作業ととらえられる。しかし“干したりたたんだりが面倒”（どちらかも含めると6割が面倒としている），“洗濯作業にあまり時間をかけたくない”（あてはまるが一番多く約半数を占める）など，作業の大変さをあげるものも多い。

洗濯作業の中で負担を感じる作業は図1-2に示すように，「衣類をたたむ」を半数が，「アイロンがけ」を1/3が負担としている。その他「洗濯後の運搬（衣類が重い）」「洗濯物の取り込み」「衣類を収納する」「洗濯機に入れる前の下洗い，手洗い」を2割強が負担としている。したがって洗う作業そのものより，干したり，取り込んだり，たたんだりする作業の方が負担を与えていると言える。特に洗濯から干すまでの移動に問題があることがうかがえる。

なお洗濯作業での不満としては（自由意見から抽出），洗濯作業そのもの，洗濯機器，洗濯に使用す

表1-9　洗濯作業と場所　件数（％）

	下洗い	洗濯	干す	取り込む	たたむ	たたんだ後一時保管	アイロン	アイロンがけ後一時保管	収納
洗面・脱衣室	28（54.9）	42（82.3）	3（5.9）	2（3.9）	1（2.0）	0（0）	0（0）	0（0）	3（5.9）
リビング・居間	0（0）	0（0）	5（9.8）	19（37.3）	32（62.7）	15（29.4）	32（62.7）	17（33.3）	1（2.0）
和室	0（0）	0（0）	0（0）	3（5.9）	4（7.8）	7（13.7）	7（13.7）	6（11.8）	3（5.9）
浴室	15（29.4）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
寝室	0（0）	0（0）	0（0）	7（13.7）	10（19.6）	11（21.6）	5（9.8）	5（9.8）	11（21.6）
子供室	0（0）	0（0）	0（0）	1（2.0）	1（2.0）	0（0）	0（0）	0（0）	4（7.8）
サンルーム・縁側	0（0）	0（0）	24（47.1）	10（19.6）	0（0）	0（0）	1（2.0）	0（0）	0（0）
家事室	3（5.9）	5（9.8）	2（3.9）	2（3.9）	2（3.9）	0（0）	2（3.9）	0（0）	1（2.0）
洗濯室	0（0）	2（3.9）	0（0）	1（2.0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	1（2.0）
ベランダ・バルコニー	1（2.0）	1（2.0）	13（25.5）	4（7.8）	1（2.0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
庭	0（0）	0（0）	3（5.9）	2（3.9）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）
各々の部屋	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	25（49.0）
その他	0（0）	1（2.0）	1（2.0）	0（0）	0（0）	2（3.9）	1（2.0）	0（0）	1（2.0）
無記入	4（7.8）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	0（0）	3（5.9）	4（7.8）	1（2.0）
一時保管せず						16（31.4）		19（37.3）	

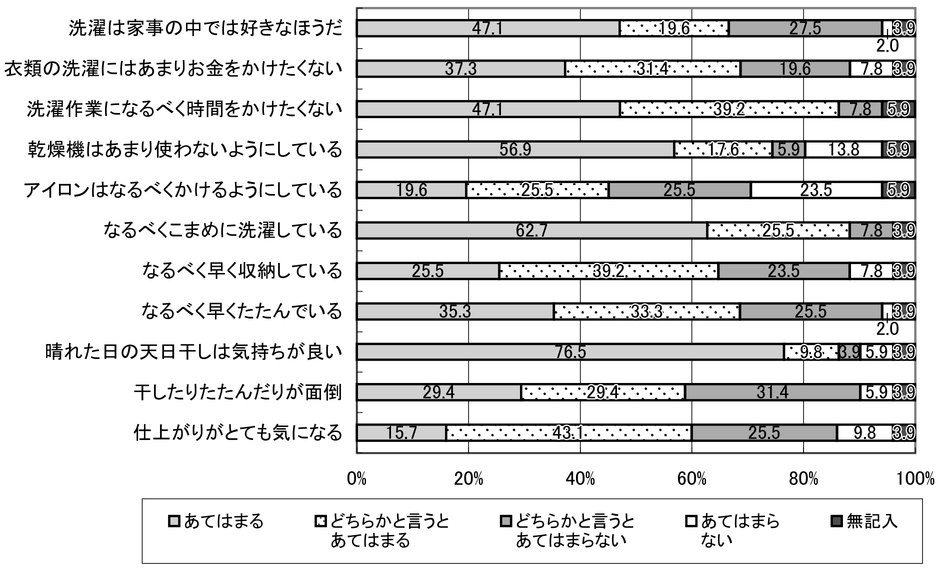

図 1-1　洗濯作業に対する意識（複数回答）

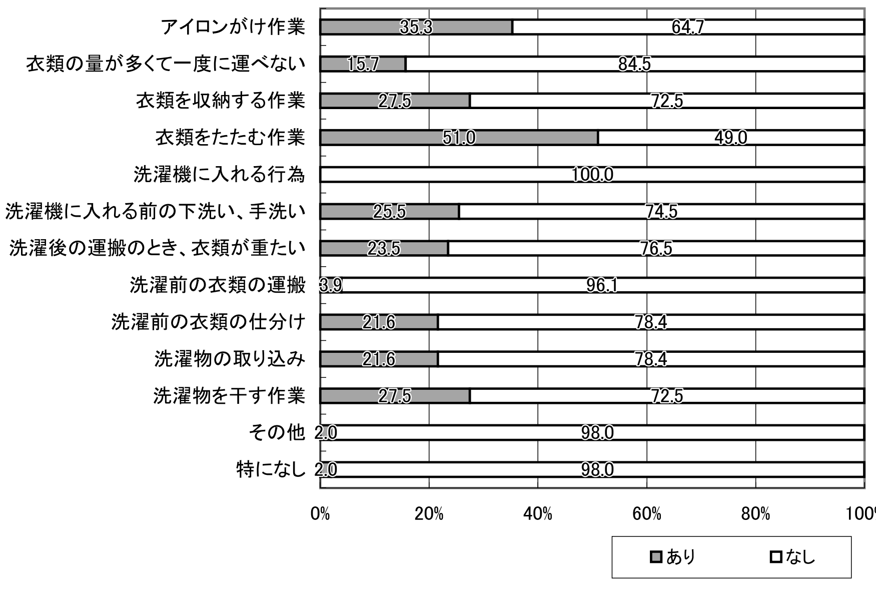

図 1-2　負担に感じることの有無（n＝51）

るアイテムや収納，作業スペース，作業動線，室内干しに関することなどに大きくまとめられる。中でも作業スペース，作業動線，室内干しに関する意見が多い。

(2)「家事作業の空間計画研究」調査

戸建住宅に居住している主婦を対象にアンケート調査を2000年8月に実施した。調査内容は家事作業全般の実情（分担，時間，考え方など）と洗濯作業の実態（洗濯行動，作業場所，満足度と必要度）などである。配布数152件，回収数は97件，有効

表2-1　調査対象者・住宅の概要（n＝89）

		件	%
家族人数	2人	6	6.7
	3	21	23.6
	4	30	33.7
	5	14	15.7
	6	13	14.6
	7	5	5.8
主婦年齢	東京	15	16.9
	神奈川	3	3.4
	埼玉県	11	12.4
	千葉	1	1.1
	茨城	3	3.4
	静岡	26	29.2
	その他	30	33.7

		件	%
家族構成	夫婦＋子供	57	64.0
	夫婦＋子供＋祖父・母	22	24.7
	その他	10	11.3
世帯主年齢	40歳以下	6	6.7
	41～50歳	29	32.6
	51～60歳	46	51.6
	61歳以上	5	5.6
	無回答	3	3.4
	平均年齢	49.5歳	
主婦年齢	40歳以下	6	7.1
	41～50歳	45	50.6
	51～60歳	30	33.0
	61歳以上	2	2.4
	無回答	6	7.1
	平均年齢	45.2歳	

		件	%
建築年数	5年未満	9	12.0
	5年以上10年未満	20	26.7
	10年以上20年未満	28	37.3
	20年以上30年未満	13	17.3
	30年以上	5	6.7
	平均建築年数	16.8年	
住宅規模*	100 m^2 未満	10	30.3
	100 m^2 以上150 m^2 未満	15	45.5
	150 m^2 以上200 m^2 未満	4	12.1
	200 m^2 以上	4	12.1
	平均住宅規模（m^2）	151.6 m^2	

＊33件のみ
※集計は89件

件数は89件である（但し家事作業全般については住宅形式にこだわらないこととしたため，一部戸建住宅居住者以外も含まれた件数である）。なお実際の戸建住宅居住者は77件である。

1）調査対象の概要

調査対象者の属性，住宅を表2-1に示す。表より家族人数は2人～7人にわたっており，中でも4人家族が一番多い。次に多いのが3人で，3人～4人家族が半数以上を占める。平均家族人数は4.2人である。家族構成は夫婦と子供の核家族が多いが，祖父・母のいる3世代家族も約1/4を占める。世帯主の職業は会社員（73.0％）が多く，配偶者は専業主婦が多いが（35.3％），常勤も18.8％いる。なおパート，在宅勤務・自営業を含めると6割以上が何かしら仕事を持っている。年齢は，世帯主は51歳以上60才以下が，配偶者は41歳以上50歳以下が一番多い。平均年齢は世帯主49.5歳，配偶者45.2歳である。

一方住宅は，持ち家の2階建て木造住宅が多い。住宅規模は100 m^2 以上150 m^2 未満が最も多いが，100 m^2 未満も多く両者で7割強を占める。平均延べ床面積は151.6 m^2 である。建築年数は1年未満から50年以上と広範囲にわたっているが，10年以上20年未満が一番多く，次に多いのが5年以上10年未満である。平均建築年数は16.8年である。

2）洗濯設備機器の所有と使用状況

現在所有している洗濯機の種類を表2-2に示す。洗濯機の種類としては二層式洗濯機，全自動洗濯機，

表2-2　洗濯機・乾燥機所有の有無

	件数	%
洗濯機の有無	78	100.0
（1）二層式	11	14.1
（2）全自動洗濯機	65	83.3
（3）同上　乾燥機つき	1	1.3
（1）＋（2）	1	1.3
乾燥機 有（n＝78）	24	30.8
浴室乾燥機 有（n＝78）	9	11.5

表2-3　乾燥機の使用状況

	件数	%
乾燥機所有	24	100.0
いつも使用	18	75.0
たまに使用	4	16.7
あまり使用しない	2	8.3
浴室乾燥機所有	9	100.0
いつも使用	7	77.8
たまに使用	0	0
あまり使わない	2	22.2

全自動洗濯乾燥機の三種類のうち，全自動洗濯機が一番多く8割強を占める。使用している洗濯機の容量は，参考にすぎないが5 kg以上7 kg未満が多い。

一方乾燥機は約1/3が所有，浴室乾燥機は全体の1割程度である。なお乾燥機の使用については，24件のうち18件（75.0％），浴室乾燥機は9件中7件（77.8％）と大部分の家が実際に使用している（表2-3）。

これら洗濯機器の設置場所としては，表2-4に示

表 2-4　洗濯機・乾燥機の設置場所

	洗濯機（n＝80）		乾燥機（n＝24）	
	件数	%	件数	%
洗面・脱衣室	65	81.3	19	79.2
家事室	2	2.6	1	4.2
庭	1	1.3	1	4.2
廊下	0	0	0	0
台所	5	6.3	0	0
浴室	1	1.3	1	4.2
その他	5	6.3	2	8.3
無記入	1	1.3	0	0

表 2-5　洗濯物の洗濯方法（クリーニング利用度）（n＝78）

	件数	%
ワイシャツ	54	69.2
ブラウス	43	55.1
セーター	61	78.2
コート・ダウン	70	89.7
スーツ・背広	71	91.0
布団・毛布	49	62.8
シーツ	10	12.8

表 2-6　洗濯の頻度，回数，時間帯

		件数	%
頻度	毎日	67	85.9
	二日～三日おき	11	14.1
	一週間おき	0	0
回数	一回	31	39.7
	一～二回	6	7.7
	二回以上	36	46.2
時間帯	朝方から午前中	71	79.8
	お昼前後	5	5.6
	午後～夕方	2	2.2
	夕方～夜	7	7.9
	午後11時以降	4	4.5

異なる時間帯にも実施する件数
10件（12.7％）

すように，洗濯機及び乾燥機ともに「洗面・脱衣室」が圧倒的に多く（洗濯機81.3％，乾燥機79.2％）同じ場所に置かれていると言える。なお洗濯機は，「台所」「家事室」「庭」に置いている家もあるが，その他として「廊下の一部」「軒下」「作業場」などとする家庭もある。また2ヶ所で使用している家もある（2件）。

3）洗濯の方法

①洗濯物の種類別洗濯方法

どの程度業者（クリーニング）を利用して洗濯作業をしているか7種類の衣類でとらえたのが表2-5である。一番利用率の高いのは，「スーツ・背広」であるが，「コート・ダウン」の利用率も高い。その他「セーター」「ワイシャツ」「布団・毛布」も利用率はやや高い。一方利用率が低いのは「シーツ」である。「ブラウス」「布団・毛布」「ワイシャツ」（20.5～33.3％）は全くクリーニングを利用しないとする家もある。

洗濯作業（表2-6）は，平日，休日に関係なく，毎日実施している家庭が圧倒的に多い。洗濯回数は，二回以上が一回よりも若干多い。なおその時間帯は「朝方から午前中」が8割と圧倒的に多いが，「朝方から午前中」に加えて「お昼前後」「午後から夕方」「夕方から夜」「午後11時以降」とそれぞれの時間帯との組み合わせで実施している家庭も1割強ある。

②洗濯作業の流れ

洗う→収納するまでの流れについて分析する。

まず洗濯物は洗面・脱衣室で洗われた後，「すぐに干す」（85.4％）が一番多いが，「しばらくしてから干すことが多い」も約1割（12.2％）いる。「乾燥機ですます」も2件ある。その干し場所は，晴天の場合「主庭・前庭」が一番多いが，「バルコニー」も多く両場所で約8割を占める。いずれにせよ住宅内に干す家庭はほとんどない。それに対し雨天の場合は「廊下・縁側」が多いが，「和室・居間」に干す家庭も多い。すなわち住宅内に干す家庭が約半数を占めるが，「サービスヤード」「車庫」など住宅外に干す家も2割ある。なおその他の場所としては，「屋根裏」「物置」「ベランダ」「作業場」「空き部屋」などがあげられている。したがって雨天の場合は家のあらゆる場所が干し場と化していると言える（表2-7）。

洗濯物を取り込む場所は「リビング・居間」（41件49.4％）が一番多く，次に多いのが「個人の部屋」である。取り込みからたたむまでの作業としては，「しばらくしてからたたむ」（58.8％）が最も多く，「取り込んだ後すぐにたたむ」（35.0％）は3割強である。この洗濯物をたたむ作業をする部屋は，取り込む部屋と同じ「リビング・居間」（47件58.8％）が多い。しかもその件数が増加していることから，他の部屋で取り込まれた洗濯物がこの部屋にたたむために運び込まれていると言える。アイロ

表 2-7　干す場所

	晴天の場合		雨天の場合	
	件数	%	件数	%
主庭・前庭	39	44.3	0	0
中庭	3	3.4	0	0
サービスヤード	4	6.8	8	9.3
バルコニー	30	34.1	0	0
車庫	2	2.3	10	11.6
廊下・縁側	3	3.4	18	20.9
土間	0	0	2	2.3
浴室	0	0	4	4.7
和室・居間	0	0	15	17.4
寝室	0	0	3	3.5
子供室	0	0	2	2.3
家事室	0	0	2	2.3
その他	5	5.7	12	19.8
決まっていない	0	0	6	7.0
無記入	0	0	4	4.7

表 2-8　洗濯作業と場所　件数（%）

	取り込む（n＝83）	たたむ（n＝83）	アイロン（n＝81）
個人の部屋	16（19.3）	13（16.3）	10（12.3）
リビング・居間	41（49.4）	47（58.8）	53（65.4）
家事室	3（ 3.6）	5（ 6.3）	3（ 3.7）
廊下	5（ 6.0）	2（ 2.5）	0（ 0）
納戸	1（ 1.2）	0（ 0）	0（ 0）
洗面脱衣所	1（ 1.2）	1（ 1.3）	0（ 0）
無記入	16（19.3）	15（18.8）	15（18.5）

ンがけ作業は78件中54件（69.2％）がしているが，アイロンがけをする場合「たたむ時とは別に後でする」が85.2％と圧倒的に多い。これは手が空いている時，またアイロンがけの必要な衣類をまとめてすることを示していると言えよう。このアイロンがけも「リビング・居間」（65.4％）で行なう家庭が多い（表2-8）。アイロンをかけた，あるいはたたまれた洗濯物は「個別に収納する」（83.3％）が圧倒的に多く，「特定の場所（1箇所）に収納する」（14.1％）は少ない。なお洗濯物をたたんだ後「そのままにしておく」と言う家庭も2件ある。

以上の結果，洗濯作業全体の流れとして，洗った後すぐ干し，取り込んだ後しばらくしてからたたむ，アイロンがけをする場合はたたむと同時にするのではなく，後でおこなう，たたんだものは個別に収納すると言うのが，一般的な流れととらえられる。それら流れをまとめて表2-9に示す。

4）洗濯作業に対する考え方及び作業場所の評価

買い物，料理，後片付け，掃除，洗濯の5つの家事作業に対する家事作業者の考え方についてとらえたのが図2-1である。特に洗濯作業については，「家事の一環（義務）としてやっている」が家事作

表 2-9　洗濯作業の流れ　件数

洗濯～干す		取り込み～たたむ		アイロンがけ	収納	
				たたむと同時に	すぐに個別	3
					すぐに特定の場	2
		取り込んだらすぐたたむ	25	たたんだ後適時	すぐに個別	13
				→	すぐに個別	5
				→	すぐに特定の場	2
洗ったらすぐ干す	**65**			→	すぐに個別	8
				→	すぐに特定の場	4
		しばらくしてからたたむ	**40**	たたむと同時に	すぐに個別	2
					すぐに個別	**24**
				たたんだ後適時	すぐに特定の場	1
					そのままにしておく	1
		取り込んだらすぐたたむ	3	たたむと同時に	すぐに個別	1
				たたんだ後適時	すぐに個別	1
					すぐに特定の場	1
しばらくしてから干す	10	しばらくしてからたたむ	6	たたんだ後適時	すぐに個別	3
					すぐに特定の場	1
				→	すぐに個別	2
		たたまない	1	たたんだ後適時	すぐに個別	1
乾燥機ですます	2	しばらくしてからたたむ		→	すぐに個別	2

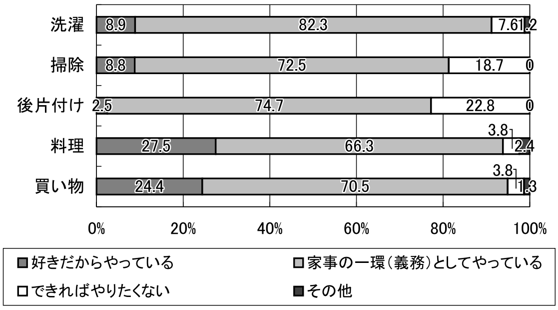

図 2-1　家事作業に対する考え方

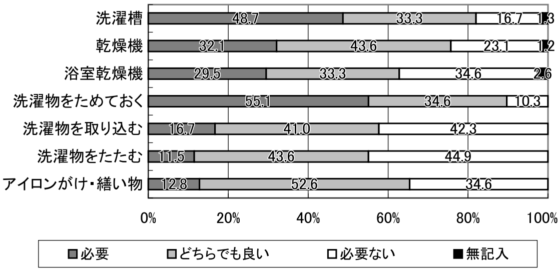

図 2-2　洗濯設備・専用空間の必要度

業にかかわらず一番高率であるが，中でも洗濯作業の率が圧倒的に高い（82.3％）。ちなみに買い物，料理は「好きだからやっている」（24.4％，27.5％）が次に多いのに対し，後片付け，掃除は「できればやりたくない」（22.7％，18.8％）が多く，今回の調査対象者の場合，家事作業に対する考え方がはっきりと分かれることが指摘できる。

また，洗濯機，乾燥機置き場，干し場などに対する満足度はいずれも高い。洗濯機の置き場を変えたいとする家は4件あるが，現在「洗面・脱衣室」（2件），「家事室」「台所」に置いているケースである。変更希望場所は「洗面・脱衣室」が2件，「浴室」が1件（無記入1件）で，その理由は“場所の狭さ”のほかに，“洗濯機のある家事室や台所と洗面・脱衣室が離れている”こと，“洗濯機置き場と干し場所とが上下で離れている”ことのためであり，採取した図面からも読み取れている。乾燥機の置き場については24件中23件が満足している。変更希望は1件で，洗濯機置き場（「洗面・脱衣室」）への変更を希望している家庭である。物干し場に対する満足度は，雨の日に使用している物干し場についての方が満足度は低い（晴れの日 91.0％，雨の日 76.9％）。晴れの日に使用している物干し場の変更希望は7件（9.0％）であるが，現在「主庭・前庭」（4件），「バルコニー」（2件），「廊下・縁側」（1件）を物干し場としている家庭である。「主庭・前庭」の家庭では“急な雨にぬれるから”，“外部から丸見え”などの，現在「バルコニー」の家庭では“2階に上がるのが面倒”などの，「廊下・縁側」の家では“共働きなので外に干しっぱなしにはできないが，外の方が良い”という理由からである。変更希望場所は「バルコニー」（3件），「主庭・前庭」（2件），「中庭」「サービスヤード」（1件）などである。

なおそれぞれの洗濯行為が行われる場所として，専用空間の必要度をとらえたのが図2-2である。図より洗濯物を分類し，ためておく専用スペースは半数以上が必要としている。洗濯物を取り込む専用空間については，「必要ない」「どちらでも良い」がそれぞれ4割で，洗濯物をたたむ専用空間も取り込む専用空間と同様に「必要ない」（44.9％），「どちらでも良い」（43.6％）となり，その必要性は少ない。アイロンがけや繕いをする専用空間については「どちらでも良い」が半数以上を占め一番多く，「必要なし」も1/3いる。収納については，分散収納希望が圧倒的に多い（81.0％）。したがって洗濯ものを取り込む，たたむ，アイロンがけ作業には専用空間がそれほど要求されていないと言える。

4. まとめ

今回取りあげた調査対象者の属性，住宅の特性はほぼ同じである（表1-1，2-1参照）。両調査対象者ともに現状の洗濯作業及び場所に対し特に不満を感じていない。また多少不便があってもそれが当たり前の状況と受け取っているのが実情と言える。

2つの調査結果による洗濯作業の実態，変容，問題点をまとめると以下のようになる。

洗濯設備の所有・使用状況については（表1-2，2-2参照），洗濯機の機種の流通の違いにより，2000年（前回と記述）には全自動洗濯機（乾燥機無し：83.3％）が，2008年（現在と記述）は縦型洗濯機（82.4％）の所有が多い。しかも乾燥機付きの洗濯機の所有は前回1件にすぎなかったのに対し，現在は乾燥機付きの洗濯機（縦型とドラム式）の所有が22件である。そして乾燥機の所有は現在では76.5％となり，前回の30.3％の2.5倍である。

一方浴室乾燥機の所有はまだ少ないが，それでも11.5％（前回）から21.6％へと増加している。なお乾燥機の使用は「いつも使用」が前回75％あったのに対し，現在は51.2％と減少している（表1-4，2-3参照）。すなわち乾燥機は洗濯物の乾燥にあたっては主流ではなく，補助機器として使用されていることを示している。

洗濯作業の頻度，回数，時間帯などについては（表1-6，2-6参照），前回と現在とによる変化はほとんどない。すなわち洗濯作業は平日・休日に関係なく，毎日午前中に行なうものが多い。

洗濯作業の流れとしては，洗った後はすぐに干し，取り込んだ後はしばらくしてからたたみ，一時保管して，個別に収納する家庭が多い。そのほか作業の流れの中でアイロンがけもする場合，洗濯物をたたんだ後しばらくしてから実施する家庭が多いのが一般的であることについて，時系列による変化はみられない（表1-7，2-9参照）。

洗濯場所についても，大きな違いは見られない（表1-9，2-4・7・8参照）。まず洗濯機・乾燥機ともに「洗面・脱衣室」に置かれ，そこで洗濯（洗う）作業がなされる。その後物干し場に移動，洗濯物は外干しが原則であるが，室内に干す場合も多い。特に晴れの日は「庭・バルコニー」が，雨天の日は「家の中」が干し場となっている。取り込んだ洗濯物をおく，たたむ，アイロンをかける部屋はいずれも「居間・リビング・和室」が多い。したがって「居間・リビング・和室＝洗濯作業（乾いたもの）の場」と言える。これら作業場所・方法については全体的に満足度が高い。

しかし，前回の調査対象者の場合，雨の日の干し場を変えたいとする意見が多い。その理由としては，"狭い""見苦しい""2階に上がるのが面倒""湿気"などの問題があげられている。また晴れの日の干し場を変えたい理由としては，"急な雨にぬれる""物干し場が遠い""外部から丸見え"などがあげられている。現在の調査対象者の場合も，"干し場までが遠い""干し場のスペースが狭い""防犯の面で外干しに抵抗を感じる""取り込む部屋とたたむ部屋が離れている"など同じような意見が自由意見として記述されている。したがって，洗濯作業にかかわる問題点は前回，現在ともにほぼ同じととらえられる。効率の良い洗濯設備機器へと開発が進み，洗濯機は変容しているにもかかわらず，洗濯作業にかかわる問題は変化していないことが明らかとなった。

洗濯作業においては，洗う作業による問題点よりも，洗濯作業行程のうち干す，取り込む，たたむ作業に問題がある。しかも「作業動線」がそれら問題の一因となっていると言える。実際，このことは住宅平面図の採取調査からも裏付けられている（"洗濯機置き場と物干し場との動線が長い―階をはさむ，大回りなど―""物干し場に行くのに，個人の部屋を横切らねばならない"など，問題をもった住宅が多い）。

今後，前述の結果をふまえ，洗濯（洗う）の場と干す場，干す場と取り込み・たたむ場との関係を作業動線からさらに追究し，住宅計画における洗濯作業空間の問題点及び配慮すべき点について報告する予定である（2008年作業動線追跡調査実施済み）。

本報告は，卒業研究として行った研究の一部をさらに分析検討し，まとめたものである。ともに本研究にあたった東京電力（株）主任研究員中山和美氏，丸山昌史氏，卒業生三井理香氏，長岡まり子氏，鈴木淳子氏ならびにこの調査に御協力いただいた方々に感謝したい。

註記

＊1　長岡まり子：居住空間と洗濯行動の関係性に関する研究―より快適な家事・洗濯行為を実現するために―，日本女子大学卒業論文（2008）

＊2　三井理香：家事作業空間について―洗濯作業を中心に―，日本女子大学卒業論文（2000）

参考文献

1）今井範子，他：住宅プランにおける家事空間の検討その1　プランにおける洗濯機配置の検討，日本建築学会大会学術講演梗概集，1141-1142（1983）

2）福島涼一郎，他：集合住宅における水回り空間に関する研究　その2「衣家事」を行なう場所の実態，日本建築学会大会学術講演梗概集，117-118（1994）

3）入澤敦子：共働き家族の住まい方と空間に関する研究　その2洗濯の実態と意識に関する調査，日本建築学会大会学術講演梗概集，415-416（1996）